

平成22年度 宇都宮市立五代小学校 学校評価書

「うつのみや学校マネジメントシステム」

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

豊かな心と健康な体を持ち、知性と創造性に富む実践力のある子どもの育成

自分で考え 進んで学ぶ子（自主・創造） 明るく 思いやりのある子（自立・共生）

健康で ねばり強い子（健康・意志） 礼儀正しく 責任を果たす子（礼儀・責任）

<合言葉：かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい 五代の子>

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

21世紀にたくましく生きる人間を育成するために、教師も保護者も同じ姿勢、同じ足並みで子どもたちを成長させながら自らも成長していく。

◇ 子どもが夢や目標に向かって楽しく意欲的に学ぶ学校

◇ 教職員がそれぞれの専門性を発揮し、実践する学校

◇ 家庭や地域とのつながりを大切にし、保護者や地域住民から信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点）

- ① あいさつの推進（心から、自ら進んで、元気に、相手の目を見てあいさつができる子をめざす）
- ② 授業の充実（楽しく、分かる授業をめざす）
- ③ 読書活動の充実（量的な向上のみならず、質的な向上をめざす）
- ④ 道德教育の充実（豊かな心と道德的実践力の育成をめざす）
- ⑤ 特別支援教育の推進（プロジェクトチームによる協力体制の強化をめざす）
- ⑥ 「食の豊かさ」を追求する食育指導の充実（「生きる基本としての食」の意識づけをめざす）

4 今年度の重点目標（短期的視点）

☆本年度の努力点（行動規準表：本年度の努力点）

（学 校 運 営）

人間尊重の教育を重視し、児童の実態や地域社会の実態に即して教育課程の編成や特色ある学校づくりを進める。心の教育を特色ある学校づくりの中心として位置づけ、道德教育、交流教育の推進や潤いのある環境づくりと密接に関連させながら推進していく。また、保護者や地域の教育力を活用して充実を図りたい。

☆ 教職員として職務意識の高揚と自主課題に基づく実践研究等による資質の向上に努める。

（児童生徒指導）

児童一人一人を共感的に理解することを基盤に、個々のよさを認めながら自己存在感を持たせるような積極的な児童指導を全校体制で進めていく。「五代の子は 五代の全職員で育てよう」を合言葉に「どんな小さなサインも見逃さないこと」「どんな問題も全校体制であたること」を常に確認し合いながら進める。

☆ 基本的な生活習慣を身に付け、互いに認め合うことのできる児童を育成する。

（健康・体力）

教科体育やロング昼休みを活用して体力づくりに取り組み、健康安全教育・性教育・給食指導・食育との関連を図りながら健康の保持増進を図る。

（学 習 指 導）

指導方法等の工夫により、基礎的・基本的内容の確実な定着を図るとともに、問題解決的な学習や、体験的な学習を適切に取り入れて、学ぼうとする意欲や態度を育て、児童にとって「分かる授業」を実現する。また、授業において、受容的で共感的な話す・聞く能力や態度の育成を通して人間関係力の育成も図る。

☆ 基礎・基本の確実な定着を図り、考える授業・話し合う授業を進める中で、互いに学び合うことのできる児童を育成する。

5 自己評価（Aは共通評価指標、Bは学校独自評価指標）（評価指標の【全】は、全体アンケート実施）

（「主な具体的な取組の方向性」には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入）

※昨年度との数値の比較を表示 例) 肯定的回答 96.4%↑(87.3%)() の中は昨年度の数値, 昨年に上昇↑, 下降↓

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	評価
教育全体の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「自分は、今の学校が好きである」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 授業や特別活動、なかよし活動などにおいて、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、「他者とのかかわり」を大切に適切な支援を行う。特設時間の他に児童会を中心に「なかよし班で遊ぶ日」「きょうだい学年で遊ぶ日」を設定し実施する。 ② 諸計画は、「新学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等の趣旨を踏まえ、修正を加え、継続実践する。	B	【達成状況】 ・「自分は学校が好きである」についての児童の肯定的回答は 94.9%↑(91.6%) 3ポイント上昇し、十分達成された。保護者 92.0% (92.1%)、地域住民 90.9%↓(96.4%) となっている。 ・見直しを図った各教科等及び各種教育年間指導計画等のもと、実践することができた。 【次年度の方針】 ・なかよし活動の特設時間の活動については、幼・保・小連携もあり本年度同様の日程(4・5・12月)で実施する。 ・他者とのかかわりを経験する場、主体的活動の場として、特設時間以外に「なかよし班で遊ぶ日」「きょうだい学年で遊ぶ日」を児童会中心に設定し実施する。 ・今年度の成果を受け、児童がさらに充実した生活を送ることができるように、「新学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等の趣旨を踏まえ、諸計画の修正を加え継続実践していく。 ・小・中学校の教職員がそれぞれの授業の様子を参観し、児童や生徒の様子や教師の授業形態等を観察したりする機会を設け、児童理解に努める。

A2 教職員は、組織の一員として誠実に熱心に教育に当たっている。 〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「先生方は、大切なことをしっかり教え、熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① ロング昼休みの時間等を有効に活用し、児童一人一人を見取り、声をかけ、よく話を聞き、よいところは認め、指導すべきことはしっかり指導する。 ② 保護者や地域の方々と積極的にコミュニケーションを図り、誠意を尽くした対応に努める。来校者・電話・連絡帳等には、速やかに親切に対応する。 ③ 学校経営への参画意識をもち、担当の校務分掌業務に対して、主体的に取り組み、効率的な運営・改善を図る。(新たな発想プラスワン企画、自分の得意分野を伸ばす、互いに支え合う組織づくり)	【達成状況】 - 児童の肯定的回答は 96.8% (保護者 86.1%, 地域住民 81.8%) であり達成できている。 【次年度の方針】 - 生活当番の昼休みの巡視を強化し、児童の生活指導、安全確保に努める。 - 次年度もロング昼休みの時間等を有効に活用し、児童一人一人を見取り、声かけなどを継続指導していく。 - 本年度同様に、欠席児童への電話連絡及び家庭訪問実施、授業参観時の来校者への積極的な声かけを行う。 - 保護者や地域の方々と積極的にコミュニケーションを図り、誠実な対応に努めるよう全職員で取り組んでいく。 - 各自が学校経営への参画意識をもち、それぞれの校務分掌において、学校長の示す「学校経営の方針」の具現化を図る。 - 広い視野をもち、新たな発想を生かした企画立案に努め、それぞれの校務分掌に対して、主体的に取り組む。
A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活をしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「生活と学習・10の約束」を教室に掲示し、教師自らが行動に表し、常時児童の意識づけを図り、6月・11月・2月の3回自己評価をする。 ② 児童の実態に即して、月目標を具現化した週の生活目標の設定と、全職員の共通理解に基づいた基本的生活習慣に関する指導を徹底する。生活の振り返りを行い、目標の達成を実感できるような指導の工夫を図る。	【達成状況】 - 児童の肯定的回答は、81.8%↑(81.4%)であり目標数値は達成した。保護者 83.6%↓(86.2%), 地域住民 81.8%↑(78.5%)であった。 【次年度の方針】 「生活と学習・10の約束」は、児童の実態に応じて、その都度必要な指導項目について児童と共に確認し、定着を図る。 - 年3回の自己評価は、学級の児童の様子を把握したり、おはなしタイムに活用したりして効果的に活用する。 - 週目標の期間を2週間とし、児童への意識付けと定着を図るようにする。 - 学年朝会を利用し、全体での指導や振り返りも行うようにする。

A4 分かる授業やきめ細かな指導で学力向上を図っている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答80%以上	① 学習のねらいを明確化し、「分かる授業」の具体的方策を工夫し実践することで授業力を高め、授業や学習をより分かる楽しいものにしていくことにより、学力向上を図る。 ② 自己研修と授業力向上のためにICTを活用した「一人一授業」(研究授業)を実践する。 ③ 『宇都宮市学校教育スタンダード』に基づく授業力向上についての「分かる授業」チェックリスト(自校化したもの)を活用し、授業評価を行い、授業力向上を図る。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は、93.8%↓(95.3%)で昨年同様、高い値を示した。保護者70.8%↑(78.2%)は、7.4ポイント上昇となった。授業の見どころを事前に通知したり、授業の流れをパンフレット形式で配付したりという取組が成果を上げた。地域住民は、82.1%↓(67.7%)14.4ポイント減少した。「わからない」という回答が多かったことから、授業を見てもらえるような働きかけを工夫する必要がある。 【次年度の方針】 ・学年会等で、各教科の教材研究を重点化する。特に、「分かる授業」として成果を上げた授業や教材は必ず紹介する。 ・教材研究の時間を設けるため、放課後の時間を確保するよう、会議の進め方を工夫したり、下校指導のあり方を見直す。 ・昨年度「ICTを活用した授業」の研究を継続し、授業のねらいを達成するための効果的な活用を意識し、視聴覚教材や実物見本等、児童が興味をもって学習に臨めるような教材を使用して分かりやすく楽しい授業を行う。 ・教員間で互いの授業を参観することにより、授業を見る目を養い、よいものを積極的に取り入れていく。 ・「分かる授業」チェックリストの項目を常に確認しながら授業を行い、授業後に自己評価を行い、授業力向上を図る。
--	---	--

A5 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている。 〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「自分は、学校での生活や様々な活動が充実している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 昨年度の反省を生かした企画・立案による諸計画を実施する。学校行事や授業等では、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定したり、適切な支援を行うなどしたりして、児童の成就感や存在感を得られるような行事や日課になるよう継続実施を図る。 ② 実施後は、次年度の教育課程に反映させるため、教職員、児童、保護者による行事アンケート、授業アンケート及び「自己点検カード」を記入し、改善策を検討する。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 93.4% ↑ (90.1%)、保護者 93.6% ↑ (93.1%)、地域住民 84.2% ↓ (89.2%)であった。 ・昨年度の反省を生かした企画・立案による諸計画が共通理解のもと適切に実施された。 【次年度の方針】 ・児童の下校時の安全確保を考慮し、次年度もウィンタータイムを日暮れの早い11・12月に実施する。 ・授業時間を確実に45分間確保するために、ウィンタータイム期間、朝の会の時間を10分間とする。 ・職員の朝の打合せを月曜日のみとし、（連絡事項は今年度開発したパソコンを使用した連絡シートを活用し、すでに情報の共有化を図る工夫を行っている。）児童に寄り添い、朝の時間を充実させる。 ・児童が充実した生活を送ることができるよう学校行事や日課を適切に設定する。また、学校行事や授業等では、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定したり、適切な支援を行うなどしたりして、児童の成就感や存在感を得られるような、さらによりよい行事や日課になるよう継続実施していく。 ・行事が1日に2つ入らないように計画を立案する。（関連行事や外部との関係により重なる場合も想定しておく。） ・保護者及び地域住民による授業アンケートを実施し、その結果が教育課程や授業に反映されるよう分析し、教職員間の共通理解を図りながら実践していくようにする。 ・行事反省は、速やかに行い、主務者は問題点を洗い出し改善案をまとめ、実施年度中に検討・引き継ぎを行う。
---	--	---

学 校 運 営 の 状 況	A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、「地域の学校づくり」が進められている。[全] 【数値指標】 保護者アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 授業参観や「オープンスクール」には、地域の方々や近隣の小・中学校及び幼稚園・保育所などにも呼びかけ授業等を公開するとともに、授業の概要や解説など用意して、より理解を得られやすくする。 ② 学校評価書や児童の学習・体力・生活の状況、危機管理などの情報は、その都度分かりやすく迅速に知らせるようにする。 ③ 校長室だより、学年だより及び各種だよりの発行やホームページの充実を図り、学校教育活動を積極的に発信する。その際、情報のあり方を工夫改善しながら、情報提供の質・量を高める。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答 94.7%↑(94.3%) 地域住民 90.9%↓(92.8%)↑と高い値を示した。 ・「オープンスクール」は、延べ 500 人が、授業参観では毎回、延べ 600 人程度の参観者があった。 ・授業参観では、参観者への理解が得られるように、教科・内容・見どころ等を事前に紹介したり、道徳授業一斉公開ではリーフレットを作成・配付し、授業に対する理解を得るようにした。 ・保護者や地域住民・近隣の教育関係機関に通知をし、参観を呼びかけた。 【次年度の方針】 ・授業参観や「オープンスクール」実施に当たっては、引き続き地域住民や近隣の小・中学校及び幼稚園・保育所などに呼びかけ授業等を公開するとともに、授業の概略等を用意し、より理解を得られるようにする。地域学校園の取組としてさらに工夫していく。 ・本年度同様に、インフルエンザをはじめとする感染症への対応、学校評価書や児童の学習・体力・生活の状況、危機管理などの情報はその都度分かりやすく迅速に知らせるようにする。 ・校長室だより「五代の子」を保護者や地域に配付し、学校教育への理解と協力を得られるようにする。 ・学年だよりは、予定や連絡だけではなく、児童の学習や生活の様子等を盛り込みながら、紙面構成や内容を工夫する。 ・保健だより、食育だより、図書館だよりを引き続き発行し、児童の学習・体力・生活の状況を知らせる。 ・個人情報の取扱いに十分配慮し、ホームページの充実を図り、学校教育活動を積極的に発信する。 ・学校ホームページは、各職員がアイディアを出し合い、魅力ある内容となるよう担当者を支援していく。
--	---	--	---

A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った取組が推進されている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「自分は、地域や企業の方々と一緒に活動したり勉強したりすることで、学習が充実し楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「食育」や「健康な生活」「親学」などに関係する各種行事や活動の際に、その趣旨を分かりやすく説明するとともに、教育講演会の実施も積極的に進める。 ② 昨年度の取組を継続実施していくとともに、児童が様々な人とかかわりながら学ぶ場として、地域の幼稚園・保育所との交流活動を推進し、「五代夏まつり」にも積極的に協力する。 ③ 学校・家庭・地域間の連絡をさらに密にし、魅力ある学校づくり地域協議会と連携しながら、児童の登下校の安全確保に努める。	【達成状況】 - 肯定的回答は児童 94.8% ↑ (91.4%)、保護者 86.5%(82.7%)は、それぞれ4%程度上昇したが、地域住民 78.7% ↓ (92.8%)と下回っている。A4と同様に、学校の取組を直接見てもらえる場の工夫が求められる。 【次年度の方針】 「親子給食会」「学校保健・給食合同委員会」「教育講演会」等、本年度の取組を充実継続実施する。 「食育」や「健康な生活」「親学」などに関係する各種行事や活動の際に、分かりやすくその趣旨を説明し、教育講演会の実施も積極的に進める。 - 本年度同様に、児童が様々な人とかかわりながら学ぶ場として、地域の幼稚園・保育所との交流活動を推進し、「五代夏まつり」にも積極的に協力する。 - 保護者や地域協議会安全安心部会の情報やスクールガード・アドバイザーの指導を生かし、学校・家庭・地域連携を密にしながら、児童の登下校の安全確保に努める。
A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「学校は、清掃がしっかり行われ、学習しやすく気持ちのよい環境である」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 校舎内外の整備・保全及び教室や教材教具の整備・補充など努め、学習意欲を高める掲示や季節感ある環境構成を工夫する。 ② 昨年度に引き続き、学年清掃を行い、日常の清掃指導の徹底を図るとともに、児童の活動を細やかに見取り、適切な指導と賞賛を重ねることにより、清掃の仕方を身に付け、自分たちの学校の美化に努めようとする意識を高める。	【達成状況】 - 各担当や学年のアイディアにより、職員室前の掲示、特別教室廊下、階段踊り場等季節感があり、しかも児童の学習の成果がうかがえる掲示ができた。教室内部計画に沿って環境構成ができた。 - 児童の肯定的回答率は、93.0% ↑ (90.1%)3ポイント上昇に対して、教職員 47.0% ↓ (79.4%)32.4ポイント下降という結果になった。児童と教職員間の意識の差が著しい。 【次年度の方針】 - 様々な情報発信の一つとして、掲示板を増やし、学習環境の整備を行う。 - 学年による清掃活動（愛校作業）を実施する。清掃の仕方や分担の人数を工夫し、児童がそれぞれの場所で意欲的に取り組めるよう配慮する。 - 清掃班の交代は1か月ごとに実施し、日常の清掃指導の徹底を図り、さらに環境美化に努める。

A9 学校全体で、教職員一人一人の指導力向上に努めている。〔全〕 【数値指標】 保護者アンケート「学校は教職員が互いに指導力向上に取り組み、指導の工夫・改善に努めている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 児童指導委員会、特別支援委員会、校内研修会等を計画的に行い、課題や現状を踏まえ、ねらいを明確にして検討し、具体的な指導法について実践化を図る。 ② 懇談会、個人懇談等で、学級経営方針の説明や進捗・達成状況を伝えたり、授業の意図をより分かりやすく伝えたりして理解を得ていく。 ③ 児童理解のための各種委員会の充実を図るとともに、授業力を上げるために、一人一人の教員が自己研修として「分かる授業」を工夫し、実践する。 ④ 児童の理解を深め、表現力を高めるためにICTを活用した授業を積極的に行う。 ⑤ 考える授業・話し合う授業を意図的に組み入れ、児童同士が学び合うことができるようにする。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 71.9% ↑ (70.5%) となり、昨年度より微増であったが数値目標に至らなかった。また、A2「教職員は、協力し、教えるべきことをしっかりと、熱心に指導している」86.1% ↑ (84.7%)、A4「教職員は、分かりやすい授業をしている」78.2% ↓ (82.1%) であった。保護者の理解が得られるよう、今後も継続して指導の工夫・改善に努める必要がある。 【次年度の方針】 ・児童理解のための各種委員会の機能を十分引き出せるよう計画的に開催し、実態を踏まえた対応策を検討し、教職員に共通理解を図りながら実践する。 ・懇談会、個人懇談等で、学級経営方針の説明や進捗・達成状況を伝えたり、授業の意図をより分かりやすく伝えたりして保護者の理解を得ていく。 ・授業力を高めるために、一人一授業の実践を始めとし、互いに授業を見せ合うことを日常的に行う。
B1 学校全体で、家庭での学習習慣の形成を図る。 【数値指標】 児童アンケート「自分は、家庭で学習する習慣ができている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 昨年に引き続き、低中高別保護者向けに作成した「家庭学習の手引き」を配付し、懇談会等で家庭の理解と協力を呼びかける。その際、県教育委員会のリーフレットや市教育委員会のスタンダード等を参考にし、説得力ある説明に心がける。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は、86.6% ↑ (85.5%)、保護者は、72.6% ↑ (67.6%)といずれも微増となった。保護者と教職員 93.9%との意識の差が大きい。家庭での学習習慣形成には、さらに保護者との連携が必要である。 【次年度の方針】 ・家庭学習の内容や進め方について、学校全体で共通理解を図るとともに、学年内でより細かに検討し歩調を合わせて実施する。 ・児童には、家庭学習の重要性をよく理解できるように話したり、個に応じた宿題を工夫したりして、習慣形成の支援を引き続き行う。 ・保護者への説明と協力を機会あるごとに行い、学校・家庭が連携して児童の指導に当たるようにする。 ・「自主学習の仕方」プリントを配付し、学年の発達段階に応じた指導を徹底する。

教育活動の状況	生活	A10 元気にあいさつし、気持ちの良い言葉づかいをしている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「児童はあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	① 常時指導及び定期的に児童会を中心としたあいさつ運動を実施するとともに、臨機応変にも対応する。その際、保護者や地域の方々の協力を得ながら、校内外であいさつ指導の徹底を図る。 ② 「生活と学習・10の約束」の常時指導の結果を、教師も児童も常に振り返るようにする。	A	【達成状況】 ＜あいさつ＞肯定的回答 児童 89.3% ↑ (85.3%) ↑ (84.9%) 地域住民 81.8% ↓ (82.1%) 保護者 72.2% ↓ (74.0%) 教職員 61.7% ↑ (50.0%) ＜言葉遣い・返事＞肯定的回答 児童 80.0% ↑ (72.5%) 地域住民 79.4% ↑ (78.5%) 保護者 62.9% ↓ (63.1%) ↓ (71.7%) 教職員 47.0% ↓ (58.8%) ↓ (66.6%) ・すべての項目のうち、言葉遣いに関する項目の保護者・教職員の値が最も低い結果になっている。3年間減少傾向にある。また、児童と教職員の認識の差が著しい。あいさつに関しては、児童は3年間上昇傾向にある。 【次年度の方針】 ・まず、教職員や保護者、地域住民等の大人が自ら率先して児童にあいさつをする。 ・下級生の手本となるように、上学年児童のあいさつ指導を強化する。（登校班長の指導等） ・引き続き、児童会を中心としたあいさつ運動を定期的実施（地域協議会と連携し年2回あいさつ運動強調週間を行う）するとともに、保護者や地域住民の協力を得ながら、校内外でのあいさつ指導の徹底を図る。 ・昇降口にあいさつを推進する看板を設置し、常時、意識付けを図り実践化につなげる。
---------	----	--	--	---	--

	B2 児童は楽しい学校生活を送っている。 【数値指標】 児童アンケート「自分は楽しい学校生活を送っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① いじめの早期発見・早期対応のため、4・6・11・2月に「学校を楽しくするために」アンケートによる実態調査を実施する。 ② 「うつのみや いじめ0宣言」を活用し、いじめ0運動を推進し、いじめ根絶の気運を醸成する。(5月、10月いじめゼロ強調月間) ③ 教育相談月間「おはなしタイム」(年2回)を充実させるとともに、必要に応じて個別に実施することを通して、児童一人一人が楽しく学校生活を送ることができるようにする。 ④ 学級満足度調査(Q-Uテスト)の結果を生かし、児童にとって楽しく安心して生活できる学級づくりに努める。 ⑤ 一人一人の特性に応じた教育支援を行い、児童が生き生きと学習や生活ができるように努める。 ⑥ 校内支援委員会やプロジェクトチームによる指導の協力体制を強化し、特別支援教育の推進に努める。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 93.2%↑(89.8%)、保護者 94.2%↑(93.5%)地域住民 93.9%↑(89.2%)等、昨年より高い値を示した。教職員 100%と児童の認識の差を受け止め指導にあたる。 【次年度の方針】 ・実態調査は、児童の実態把握や学級経営、教育相談に活用する。 ・いじめに関する標語を募集し、校内の掲示板に展示する。また、昼の放送を利用して、いじめゼロの心構えについて呼びかける。 ・いじめ根絶集会を行ったり校内放送で人権に関する作文を朗読したりし、意識の高揚を図る。 ・「おはなし会ばけっと」の協力を得て、強化月間中に人権に関する本を取り上げていただき、読み聞かせをしてもらうなど、連携を図った取組を工夫する。 ・期間中に終わらなくても、学級担任裁量で実施時間を確保し、必ず全員と教育相談を行う。 ・「おはなしタイム」は、年2回必ず時実施するとともに、必要に応じて各担任が設け、児童一人一人の実態把握に努める。 ・年3回行う自己評価とともに、Q-Uテストを児童指導やおはなしタイムに活用する。 ・急を要する指導に関しては、組織等を利用して早期対応に努める。 ・学年会等で学級の状況を伝え合い、配慮を要する児童への対応や学級経営について情報交換や意見交換を行う。
--	--	--	---

健康・体力	A11 毎日朝ごはんを食べ、好き嫌いのない食事をしている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「自分は、好き嫌いなく食べている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「食育パンフレット」や食育ビデオを活用した給食指導の充実を図り、望ましい食習慣と食事マナーを身に付けるようにする。 ② 学級活動の「食に関する指導」の授業を行う際に、学校栄養職員と協力し、食事の重要性や望ましい栄養の取り方などについての理解を深められるよう指導を工夫する。 ③ 「食育だより」等を通して、より一層の情報発信に努め、家庭における食育の推進を図る。 ④ 昨年度に引き続き「お弁当の日」を設定し、食事について親子で考える機会とし、児童自身の体の成長や食への関心を高め、感謝の心を育てる。	【達成状況】 - 児童の肯定的回答 73.2% ↑ (70.6%)は、昨年同様数値目標に至らなかった。教職員 73.5% ↑ (67.6%)保護者 80.6% ↑ (80.5%)ともに、上昇傾向が見られた。 【次年度の方針】 「食に関する指導」では、特に1年生に入学した際に配付される学校給食用指導用パンフレット2冊を有効に活用し、低学年のうちに、身に付けさせたいマナー等の指導を充実させる - 学級活動や家庭科の授業における「食育」に関する指導は、学校栄養職員と協力し系統的・継続的に行う。 - 食育用の視聴覚教材を有効活用する。 「食育だより：ぐるめに通信」を充実させ、より一層の情報発信に努め、家庭における食育の推進を図る。 「お弁当の日」の取組をさらに工夫し、児童自身の体の成長や食への関心を高め、感謝の心をより一層育むとともに、保護者への理解と啓発に努める。
	B3 進んで運動に親しみ、健康の保持増進を心がけている。 【数値指標】 児童アンケート「わたしは、よくうんどうし、けんこうにきをつけている」「自分は進んで運動し健康に気をつけている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「元気っ子健康体力チェック」を全学年実施し、その結果をふまえ、児童の実態に応じた指導を徹底する。	【達成状況】 - 児童の肯定的回答は、「休み時間や放課後などに積極的に運動をしている」88.2% ↑ (84.8%)、「進んで運動し健康に気をつけている」89.6%(89.8%)となり、ともに数値目標を達成した。保護者 97.1% ↑ (95.1%)地域住民 100% ↑ (92.8%)も高い値を示した。しかも、両者共に全項目中最高値となっている。 - 昨年度、新型インフルエンザが流行し、多くの学級が学級休業という事態に陥った。今年度も、複数学級がインフルエンザによる学級休業を実施した。そのため、手洗い・うがい、栄養・睡眠などの健康管理に関する指導を強化し、児童の健康に対する意識を高

		② 「うつのみや元気っ子プロジェクト」のミニマム達成のために、運動プログラム集を活用し、最低限身に付けさせたい体力や技能の習得に努めたり、準備運動にサーキットトレーニングを取り入れたりして、教科体育の充実を図る。また、運動の日常化を図るため、児童が意欲的に取り組めるような学習カードを充実させる。 ③ 汗の始末、手洗い・うがい（咳エチケットやマスクの着用等）を通して、かぜやインフルエンザ、新型インフルエンザ対策の指導をより一層徹底し、よりよい生活習慣を身に付けさせるとともに、健康な児童の育成に努める。また、給食後の歯磨き指導を徹底し、むし歯の予防に努める。 ④ スタンダードダイアリーを活用することにより、家庭との連絡を密にし、指導に生かせるようにする。 ⑤ 集団登下校の実施、自転車乗車時のヘルメット着用、交通安全教室、防犯教室、不審者侵入想定避難訓練、「安全安心マップ」の作成などを通して、自己保全能力（自分の命は自分で守る）の育成を図る。なお、下校指導には全職員が当たるとともに、地域ボランティアと連携して安全の確保に一層努める。	め、健康を守るため主体的な取組を促すことができた。 ・市教委主催の宇都宮げんきっ子チャレンジへの参加、体育の授業における投力を伸ばすための玉投げに挑戦している。 ・歯みがき用のＣＤを作成し活用を図っている。 ・お茶うがいを実施している。 ・防犯教室、交通安全教室、避難訓練等の安全教育の徹底を図り、児童が安全に学校生活を送ることができた。 【次年度の方針】 ・「元気っ子健康体力チェック」で、特に市全体・全国と比較し、落ちている点については、項目を絞り、学校全体で、体育の授業の準備運動等に取り入れ、ミニマム達成に努める。また、児童が意欲的に取り組めるよう指導の工夫を図る。運動プログラムを活用し、体育部でサーキットトレーニングを作成する。 ・ヘルメットの着用については、着用率が上がっているので、今後とも交通安全への意識を高め、自己保全能力を育成する。 ・手洗い・うがい等励行に努め、インフルエンザなどに罹患しない健康な児童の育成に一層努める。 ・引き続き、給食後の歯みがき指導を継続し、むし歯の予防に努める。 ・安全教育を充実させるとともに、集団登下校時における安全確保のため、保護者・地域ボランティアとの連携を推進する。
--	--	--	--

学 習	A12 授業に熱心に取り組む、基本的な学習態度・技能が身に付いている。 〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「児童は、先生や友達の話をよく聞くなど落ち着いて学習している」⇒児童の肯定的回答80%以上	① 授業で学習した漢字を正しく読んだり書いたり、整数・小数・分数の基本的計算を正しく計算するとともに、朝の学習の時間や長期休業を利用して漢字・計算力の向上を図る。また、習熟のための時数を確保し、指導の充実を図る。 ② 教室に掲示してある「学習の約束」を時々読み合わせるなど確認したり、自己評価を行ったりするなど意識付けの継続を図る。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 85.2%↑(82.2%), 教職員 88.2%↓(94.1%), 地域住民 78.1%↓(82.1%)保護者 81.2%↑(78.9%)であった。 ・少人数指導担当者が1人から2人に増えたことにより、習熟度別学習やチーム・ティーチング等、個に応じたきめ細かな指導体制が強化された。 【次年度の方針】 ・「朝の学習」の時間では、国語・算数の課題を工夫して出すことにより、漢字や言葉、計算力の向上を図る。朝の打合せを減らし（週1回実施）、朝の学習の充実を図る。 ・5・6年における少人数指導・習熟度別学習の指導法を工夫し、個に応じたよりきめ細かな指導に努める。少人数指導担当と該当学年担任との打合せを密に行い、互いに連携しながらより効果的な指導が行えるようにする。 ・「学習の約束」を朝の会の時間に継続的に確認をしたり、適宜、教師が声かけを行ったりすることを通して、基本的な学習習慣の徹底を図る。
--------	---	--	---

A

	B4 読書を好み、進んで本を読んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は読書を好み、進んで本を読んでいる」⇒児童の肯定的回答80%以上	① 学年ごとに音読カードや読書の記録カードを活用し、読書を奨励する。読書の量だけでなく質的な向上をめざす。 ② 児童の興味・関心を喚起する本や学習に役立つ本の購入に心掛けとともに、図書室の環境構成や運営（図書だよりの内容の充実等）を工夫し、貸し出し冊数の向上を図る。 ③ ボランティア（「おはなし会ぽけっと」や「雀宮おはなし会」など）や委員会児童による読み聞かせを推進し、読書への関心・意欲を高める。 ④ 家庭における読書の習慣化を図るとともに、読書を通じたコミュニケーションの機会として長期休業中などに親子読書を勧める。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 80.2% ↑ (79.1%) 教職員 100% ↑ (94.1%) となり、昨年度より好結果となった。読書量の個人差が大きい。 【次年度の方針】 ・ブックトークや読み聞かせを工夫し、読書の楽しさをと伝えるとともに、各教科等での図書の活用を推進し、学習センターとしての機能を充実させる。 ・学校図書館司書と司書教諭の連携を図り、図書館教育の充実を図る。 ・特に、読書週間では、先生方のおすすめの本を展示したり、図書委員会の児童の活躍の場を設ける等、さらに工夫した取組を実践する。 ・読書意欲を喚起させるため、読書クイズ等（正解するとプチスペシャルカードの発行等）を行う。 ・国語科の授業で物語教材を扱った後、関連図書を紹介したり、展示したりして、読書の拡大・深化を図る。 ・地域ボランティアの方々との連携・協力により、児童の読書への興味・関心をさらに喚起する。 ・保護者の読書への理解と啓発、協力を得るために、親子読書を実施する。読書環境を整えるように働きかける（ノーテレビ、ノーゲームデー等）。
--	---	---	---

本校の特色・課題等	B5 授業や日常生活の多くの場において、自他の思いや考えを伝え合う活動を充実させる。 【数値目標】 児童アンケート「児童は、進んで挙手し、大きな声で発表するなど授業に対して積極的に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 国語科の学習では「書く」活動を継続して指導し、児童が自分の思いや考えなどを的確に表現できるようにする。書くことによって考え、まとめ、伝える力を育成する。 ② 豊かな表現力を育む音楽活動の展開においては、聴く力や感じる取る力及びコミュニケーション能力における学び合う力、伝え合う力の育成を図る（昨年度の学校課題研究の継続）。 ③ 各他教科等においても、豊かな感性が育つ場を設定し、感動や思いなどを多様な手段で表現できるように指導を工夫する。 ④ 日常生活の多様な場において「書く」活動を取り入れ、掲示資料や具体的な活動を通して、他者に分かりやすい表現の仕方など、表現力の育成を図る。 ⑤ 児童の理解に努め、表現力を高めるため、ICTを効果的に活用した授業を展開する。 ⑥ 児童が互いに学び合うことができるようにするため、考える授業・話し合う授業を展開する。 ⑦ 授業参観後の懇談会等で、表現力育成のために工夫していることや個に応じた指導について説明をするなどして、保護者の理解を得るように努める。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 85.8% ↑ (81.8%)教職員 94.1% ↑ (91.1%)昨年度より上昇し、目標数値に達した。地域住民 68.7% ↓ (89.2%)、保護者 80.4% ↑ (78.9%)であった。地域住民は、「わからない」という回答率が高かった。 【次年度の方針】 ・国語科を中心に自他の思いや考えを伝え合う指導の充実を図る。「書く」指導における個別指導をさらに充実させる。 ・調べたことや自分の考えを発表する場を設定し、言葉だけではなく掲示資料作りなど具体的な活動を通して表現するための指導を継続させる。 ・授業の中で、自分の考えを「書く活動」をしっかりと位置付ける。 ・各教科等において、コミュニケーション能力、学び合う力、伝え合う力の育成を図るため、言語活動を充実させる。 ・心に響く教材のときには、感動や思いを書かせたり、話し合わせたりする活動を今後も意図的に取り入れる。 ・委員会活動や学校行事の中で、招待状・お礼の手紙・ふりかえりカード・発表会のための資料作りなど「書く」活動を通して分かりやすく表現するための指導を継続する。 ・今後も豊かな感性が育つ場を設定し、感動や思いなどを多様な手段で表現できるように指導を工夫する。 ・本時の授業のねらいやポイントを明確にし、分かる授業をより一層展開する。 ・児童が互いに学び合うことができるようにするため、考える授業・話し合う授業をより一層推進する。 ・家庭における親子のコミュニケーションについて、学年だより等で呼びかけたり、学級懇談等で提案したりする。
------------------	--	--	---

	B6 道徳教育や授業、体験学習や交流活動などで、心の教育を推進し豊かな心を育てる。 【数値目標】 児童アンケート「学校(高学年：道徳や授業、体験活動など)では、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 道徳の時間では、児童の心を揺さぶるような感動教材や身近な資料、心のノートを有効に活用し、心に響く授業の展開に努める。 ② 全校一斉の道徳の授業参観を実施する。 ③ 縦割り班活動や異学年交流などのふれあい活動やなかよしチャレンジ、一日先生などを通して、幼稚園や保育所、地域との交流を図りながら、児童の自主性・創造性・協調性・実践力が育つよう指導・支援を行う。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 94.8% ↑ (94.3%), 教職員 97.0% ↑ (94.1%), 地域住民 78.7% ↓ (92.8%) 保護者 81.5% ↑ (76.7%) ・道徳の時間や体験的学習、交流活動などを通して、自主性・創造性・協調性・実践力を伸ばしながら心の教育を推進した。 ・なかよしチャレンジや昔遊びにおいて、保護者や地域ボランティアの協力を得ることができた。 【次年度の方針】 ・日頃から道徳の時間に活用する新しい教材の開発を心がけ、年間指導計画の改善を図っていく。心のノートについては道徳の時間に限らず、様々な学習において活用できるよう工夫していく。 ・道徳の授業パンフレットは、参観者に授業のねらいを伝えるのに効果的であった。今後もさらに工夫して取り入れていきたい。 ・道徳の授業の中で、ICTを有効に活用できるよう研究を継続する。 ・平成25年度の宇小教研道徳部会の授業会場校となることから、道徳の研究に着手する。 ・なかよしチャレンジは、児童会主催で実施し、高学年児童のリーダー性を育成する。 ・異学年交流や幼保小連携活動の意義を踏まえて諸機関と連携をより密にしながら、内容を精選して活動計画を検討する。 ・自主性のある児童の育成をめざし、縦割り班のリーダー育成を、児童会活動と連携して指導にあたる。
--	---	---	--

【総合的な評価】

- 児童の肯定的回答80%を数値目標とした項目のすべてが達成率を超え、成果を上げることができた。
特に、90%を上回る項目は、「自分は、今の学校が好きである」、「先生方は、大切なことをしっかり教え、熱心に指導してくれる」(全項目中最高値94.9%)、「先生方の授業は、分かりやすく一人一人にいていねいに教えてくれる」、「児童は、進んで挙手し、大きな声で発表するなど授業に対して積極的に取り組んでいる」、「学校では(道徳、授業、体験活動等)では、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる」等であることから、児童は、明るく生き生きと学校生活を送っていることがうかがえる。
- 「あいさつ」「言葉遣い・返事」については、昨年度同様に、保護者・教職員において最も肯定的回答率の低い項目となった。また、児童との認識のズレが大きい項目でもある。課題に対しては、様々な活動を行ったが、さらに児童の意識を高め、実践化を図る取組が必要である。
- 保護者・地域住民共に、「児童は休み時間や放課後などに積極的に運動している」(全項目中最高値：(保)97.1%(地)100%)「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」に高い肯定的回答を示した。情報発信については、授業参観における授業の見どころ・道徳の授業全学級一斉公開時の授業パンフレットや学校だより・各種たよりの工夫、ホームページの充実等への取組に成果を上げることができた。

6 学校関係者評価

- 全体的に見ると、各項目の数値目標がほぼ達成されている。児童は、先生方の熱心な指導のもと、元気に学校生活を送っている。
- 「あいさつ」「言葉遣い・返事」については、子どもたちの声が小さいし、言葉がはっきりしない。大きな声を出す経験や習慣が乏しいのではないかと。訓練をしてほしい。あいさつのもつパワーは大きい。学校だけでなく、家庭でのしつけや地域のかかわりも大切ではないか。「あいさつ」は、まず大人から子どもたちにしていくことが大切である。子どもたちは、あいさつされれば返してくれる。自然に自分からあいさつできるようになるまで、繰り返し続けていくことで身に付くのではないかと。地域でも、各種行事等を通して、子どもたちが人と人とのコミュニケーションを図る上で大切なあいさつ等の基本的な生活習慣を身に付けられるよう積極的にかかわっていききたい。
また、小中一貫教育を進める上でも、中学校と連携したあいさつ運動を行ってみてはどうか。
- 家庭学習については、宿題の内容と量が学級・学年によって様々である。学年で共通理解・同一歩調を図ってほしい。
- 登下校の安全確保については、安全安心パトロール隊を中心に、地域で熱心に取り組んでいる。保護者の方々の参加がさらに増えると安心である。また、道路の歩行のしかた等、交通ルールの指導をさらにお願ひしたい。看板・文書・声かけを工夫していききたい。
- 授業参観やオープンスクールに参加した。先生方は、子どもたちへの指導を熱心に行っていた。「分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導」「自分の考えをきちんと表現できるような指導」等の項目は、実際に学校の中に入って授業を参観し、教職員や児童の様子を見なければ評価できない。地域住民が「わからない」と回答する率が高いので、学校の取組を積極的に伝えていく工夫が必要ではないか。
- PTAと地域協議会相互の役割を意識しながら、共に力を合わせて子どもたち・学校そして地域のために活動していきたい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

- 今年度の成果と課題を受けた「次年度の方針」に基づき、児童がさらに充実した学校生活が送れるようにするため、「主な取組」を具体的に設定し、「評価指標」達成のための活動を積極的に推進する。「新学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育推進計画」「宇都宮市小中学校体力向上計画」等の趣旨を踏まえ、見直しを図る。
- 「分かる授業」の具体的方策を工夫し実践することで、授業力を高め、学力向上への取組をさらに推進する。指導法の工夫、学習習慣の確立、家庭学習の充実等を通して、基礎・基本の確実な定着を図る。今年度「理解を深め、表現力を高めるための指導法の工夫」として成果を上げたICTを活用した授業研究を継続する。また、一人一授業を継続し、教職員同士の学び合いを通して、授業力を向上させる。
- 「読書活動の推進」では、学校・家庭において読書の日常化を広めるために、読書指導の工夫、学校図書館の活用の見直し、親子読書の勧め等を積極的に展開する。
- 「心の教育」を推進し豊かな心を育てるため、今後も、全学級一斉の道徳の授業公開、ふれあい活動、なかよしチャレンジ、幼稚園・保育所との交流活動等、学校・家庭・地域が連携した取組をより一層推進する。なお、平成25年度の宇小教研道徳部会の授業会場校となることを好機ととらえ、「豊かな心で共に生きる子どもを育む道徳教育」を研究主題とした学校課題研修に着手する。
- 児童の体力・健康や食生活の向上については、「うつのみや元気っ子プロジェクト」に基づき、教科体育の充実、食育の推進を図る。
- 「あいさつ」等については、今後も教職員が率先してあいさつを心がけ、速やかで親切な対応に努め、児童・保護者・地域住民と積極的にコミュニケーションを図ることにより、連携・協力態勢を強化し、学校を核とした家庭・地域の教育環境の充実を図る。
- 児童一人一人を共感的に理解することを基盤に、個々のよさを認めながら自己存在感をもたせるような積極的な児童指導を推進するとともに、どんな問題も全校体制で当ることを常に確認しながら進めることを継続する。
- 学校だより・各種たより・ホームページのより一層の充実を図り、学校の情報発信・提供に努め、さらに信頼される学校づくりを推進する。